

金時ニンジンのキクノネハネオレバエ対策への 取組み支援

■ J A 香川県観音寺地区人参部会 ■

（西讃農業改良普及センター 真鍋 尚、○山本千絵）

●対象の概要

J A 香川県観音寺地区ニンジン部会は、観音寺市室本町の海岸線にある砂地土壌を活用して、戦前から金時ニンジン栽培してきた。平成19年から金時ニンジン本来の形質を取り戻すため、関係機関と連携して優良系統選抜を行い、品質の高いニンジンが得られるようになった。現在、金時ニンジン栽培者は26名で11.6haの栽培がある。



観音寺市室本地区

●課題を取り上げた理由

平成21年12月に金時ニンジンの根部にハエの幼虫の寄生を認めた。平成23年1月に同様の被害が1圃場で激発し、病害虫防除所に寄生幼虫の同定を依頼したところ、キクノネハネオレバエ（以降キクノネと表現）と同定された。キクノネは、昭和63年4月に兵庫県で初めて確認され、ニンジンの加害は平成17年に確認されている。このようなことから、普及センターでは、関係機関と連携して、トラップを用いた成虫のモニタリング調査や防除薬剤の検討を行い、防除対策に取り組むこととした。



キクノネハネオレバエの成虫（体長4mm）



キクノネハネオレバエの幼虫による被害

●普及活動の経過

1 定期的な成虫のモニタリング調査

平成23年には激発ほ場の周辺で、24年及び25年は年間を通して産地全体で21か所にトラップを設置した。その結果、キクノネの成虫発生は3月下旬～5月上旬、10月下旬～12月中旬の年2回に発生することがわかった。発生する場所、時期がある程度特定されたことから、平成26年～28年にトラップを9か所に絞り調査を行った。



金時ニンジンほ場にトラップを設置した様子

2 防除薬剤の検討

春と秋にキクノネの成虫が発生することから、病害虫防除所と連携して金時ニンジンの防除時期に、効果のある農薬の検討を行った。

3 生産者への意識啓発と発生状況の確認

キクノネの成虫発生状況と効果のある防除薬

剤の周知を行った。具体的には、平成24年からキクノネの成虫発生時期に防除効果のある農薬を地区全体で期間を決めて散布を促すため、出荷場に周知するとともに生産者に防除チラシを配り防除を促した。また、金時ニンジンの収穫が終了した時期に、地区内のキクノネの発生状況等を報告する講習会を開催し、被害ほ場の確認をした。地区内の発生状況を確認し、地図上に落とし視覚化することで、生産者の意識を高めた。

●普及活動の成果

1 キクノネの成虫発生が減少し、10a当たりの収量が安定

平成23年からのキクノネの発生状況は、図-1のとおりである。平成24年からの一斉防除の呼びかけにより、平成23年には1か所平均の発生成虫が17匹だったものが、24年には3.5匹に減少した。25年～27年と発生が少なく経過した。28年は4.4匹となった。

時期別のキクノネの発生状況は、図-2のとおりである。23年、24年は春に発生が多く見られたが、それ以降は、年により秋の発生が多く見られる年もあった。ほとんどのほ場で、被害はなくなり、10a当たりの収量が安定した。



図-1 キクノネの成虫誘引数の経過

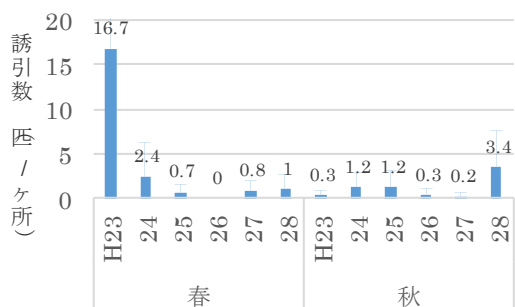


図-2 キクノネの時季別成虫誘引数

2 地区全体での一斉防除が定着する

キクノネに対して防除効果の高い農薬を金時ニンジンの防除体系に採用し、全体に呼びかけた。今までは、防除暦を周知するだけだったが、地区内全体での防除期間を10月中旬、11月下旬に定め、一斉防除に取り組むことを推進した。それに伴って、今まで防除が少なかったタマネギで春のキクノネの発生時期に合わせて一斉防除も実施できた。

病害虫防除のお願い！

J A 香川県三豊地区営農センター

香川県西讃農業改良普及センター

例年キクノネハネオレバエの成虫が10月中旬頃より発生が確認され、11月にかけて発生のピークを向えます。本年は、まだトラップ(黄色ホリバー)に誘殺されておりませんが、幼虫による食害を防止するために、下記の薬剤を必ず金時ニンジンに対して共同防除を行ってください。

登録病害虫	薬剤名	希釈倍数	使用基準
軟腐病	スターナ水和剤	1,000倍	7日前/3回
ハネオレバエ類	スピノエース 顆粒水和剤	5,000倍	3日前/3回
アブラムシ類	スタークル 顆粒水溶剤	2,000倍	7日前/2回

図-3 一斉防除を呼びかけるチラシ

3 キクノネ被害ほ場で防除薬剤の効果を確認

発生ほ場については、年々減少してきたが、平成27年の秋の成虫の発生が少なかったにもかかわらず、多発(30%以上の被害)ほ場が1か所見られた。平成27年2月に防除に採用していた農薬の登録がタマネギ、ニンジンで削除されたこともあり、ここで新たな薬剤体系の試験を実施した。その結果を報告し、次年度に向けての対策として活用できた。

●今後の普及活動の課題

土壌消毒や一斉防除を行っていても、いまだに一部で発生がみられるため、最適な防除時期と防除薬剤の検討が必要である。今後も、キクノネの成虫の発生時期に多発ほ場を中心に一斉防除を行う。さらに、防風林近くにキクノネの被害ほ場が見られることから、防風林からの侵入の疑いがあるため確認調査を行い、キクノネの被害軽減に取り組む。

このほか、この地区は、金時ニンジンを始め、タマネギ、施設イチゴ等を組合せた収益性の高い輪作体系に取り組んでおり、関係機関と連携し、儲かる農業に向けた支援を行う。